

思い通りにならない時こそ

17世紀、イギリスのロンドンでペストという感染症が大流行した。当時、ケンブリッジ大学に通っていたある学生も休校で実家に帰ることになった。そこで、今まで忙しくてなかなか手をつけられなかった自分の研究に没頭したその学生は、リンゴが落ちるのを見て万有引力の法則に気が付いた。あの偉大な科学者、ニュートンの話である。

同じ頃、ロンドン中の劇場が閉鎖され、仕事を失った俳優がいた。安定した収入がなくなったその俳優は、有り余る時間を使って演劇の台本を書いた。その時に書かれたお話が『リア王』や『マクベス』である。こちらはあの偉大な劇作家、シェークスピアの話である。

新型コロナウイルスが大流行している2020年、「たくましい人」を目指す私たち南二中生も（もちろん教職員も）、今自分達にできることを考え、実行していきたいものである。

長い長い休校が続いた。こんなことは私たち大人にとっても初めてのことである。2年生のみなさんがどんな生活をしているのか、どんな気持ちでいるのか、とって心配していた。

月曜日、みなさんの顔を見てホッとした。「久しぶりに再会できたから」というのもあるが、それだけではない。みなさんが元気そうで、よい意味で「変わっていない」と感じたからである。家での生活を、それほど乱さずに済んだ人が多かったのだろう。家族に感謝しないといけない。

残念ながら雨天だったため、校庭ではなく教室での始業式となった。校長先生のお話や新任の先生の挨拶は、放送によって行われた。密集を避けるため、新クラスのメンバーが同じ部屋に集まることもできなかった。新担任は各部屋を回って、新年度の挨拶をした。計画の変更が続き、準備し直さなければいけないことも多いが、それでも始業式を迎え、学校を再開することができた。

生活をしていると、思い通りにならないことは多い。でも「その時にどんな行動ができるのか」を考えることが大切であろう。簡単にあきらめたり不満を口にしたりするのではなく、やり方を工夫して実施してみる。他にできる有意義なことを考えてみる。そんな態度で生活していくことで、こんな時でも、いや、こんな時だからこそ伸ばせる力もあると信じたい。

クラス分けも同じである。1年間慣れ親しんだ友達と離れて新しいメンバーで生活を始めることは、ストレスを感じることでもあるだろう。でも新しい人間関係をつくることは楽しいことでもあり、成長のチャンスでもある。今年も1年間、与えられた条件の中で最善を尽くしていこう。

===

寺岡先生が異動になり、野口が学年主任を引き継ぐことになりました。寺岡先生と一緒に素敵な学年をつくりたかったのですが、これも仕方がないこと。新しい先生方と力を合わせていきます。やりたいことはたくさんあるのですが、みなさんを集めて話をすることもなかなかできません。時々学年だよりも使いながら、みなさんを応援する手段を探っていきたいと考えています。1年間、どうぞよろしくお願ひします。